



エコパートナーシップうじたわら

うじたわらの木くん

～茶文化の源 水・緑・生命の環を育む和みのまら～

発行日：平成30年2月25日（第71号）

編集・発行：エコパートナーシップうじたわら広報部会

事務局 TEL(88)6639 FAX(88)3231

春の環境学習を実施します

3月3日（土）午前9時～正午

宇治田原町役場集合

役場から荒木地区～天皇谷～大宮神社を歩いて、史跡や自然環境を観察します。

・小学生を対象とした教育委員会の環境学習を兼ねています。申し込み先は教育委員会社会教育課（電話88-5850）になっています。



カリガネソウ



この事業は平和堂財団
環境保全活動助成事業
「夏原グラント」の助成
を受けて実施していま
す

町内の事業所を訪問しました

昨年12月7日（木）、工業団地で操業する濱田プレス工藝株式会社を訪問しました。

同社は昭和22年に東大阪で創業し、製造業としてオリジナリティのある製品づくりを行ってきました。

平成16年に京都工場が稼働。製造・流通拠点としておよそ100人の社員が勤務しています。

金属板をプレス加工して建設機械の部品等を製造していますが、平成23年からLED照明の製造を本格化。まずは自社工場の照明を水銀灯からLED電灯に切り替え、輝度が40%アップしながら従来比75%まで省電力化を実現しました。町内の公共施設の室内照明や街路灯をLEDに切り替えたときも自社製品を納入しています。

訪問時は社長をはじめ、社員の方々に事業説明や工場内を案内していただき、作業の効率化とともに環境保全に取り組まれていることを実感することができました。

同社にはエコパートナーの賛助会員として活動を支援していただいています。



人と地球の健康問題

昨年の夏、珍しく入院生活を経験した。肺炎にプラスして血糖値の異常な上昇という厳しい状況であった。治療のおかげで肺炎は治まったけれど、血糖値に関しては入院後も長い病気との闘いが待っていた。

ヘモグロビンA1Cが13という現実には直面していた。7を超えたらイエローカードであるから13という数値がいかに危険なものであるかがよくわかる。身体のマネジメントできないものが環境のマネジメントをするなんておこがましいとうそぶいたが、そんな悠長なことを言っている場合ではない。命の問題である。

次の検診まで2か月あまり。ヘモグロビンA1Cを6台にしようと目標をたててみた。

- 体を壊す原因となったジュース類はやめる
- お菓子は減らす
- アイスクリームは週1回
- お酒は控える
- ご飯は一膳、野菜は盛りたくさん
- 運動は1日10,000歩を目標に

どれもこれも厳しい項目であるが、2か月の禁欲生活の結果数値が6台に回復し主治医からお褒めの言葉をいただいた。もちろん目標はゴールではなくまだまだスタートしたばかりであるが。

このことを地球に置き換えてみた。今地球は温暖化という病にかかりまさしく存続の危機にみまわれている。しかし「赤信号みんなで渡れば怖くない」といった雰囲気は広がり命の問題と受け止めている人は少ない。命の問題と受け止めたら、地球は変わるのに。

《パリ協定での目標値（温室効果ガス排出量）》 2030年度に2013年度比26%削減（芦原 昇）

絶滅危惧種「うなぎ」がいなくなってしまう？

ウナギは9月1日の湯屋谷地域の「大瀧祭」や「うなぎ茶漬け」といった町内の伝統文化とかかわりの深い魚で、昔は各地の河川で見られたものの、環境の変化で減少。商品として流通しているものは大部分が稚魚であるシラスウナギを捕獲して肥育したものです。

そのシラスウナギの漁獲量も近年は減少傾向が続いていますが、最近のニュースでは今年の漁獲量が前年の数%程度にとどまっているというのです。数%の減少ではなく、90%以上減少しているのです。

ニホンウナギは2014年に国際資源保護連合が絶滅危惧種に指定。一時は野生動物の取引を規制するワシントン条約の対象にされるのではないかといわれました（ヨーロッパウナギはすでに規制対象）。

さらに、国内で流通するシラスウナギのおよそ半数が違法に採取されたもので、海外からの密輸も横行しているともいわれます。

「土用の丑の日はうなぎ」というのはシーズンオフにうなぎを売るために平賀源内が考案したというのは有名な説で、今もその時期には大々的にセールスが行われていますが、価格が高騰する一方で大量仕入れによる売れ残り品の大量廃棄につながるおそれがあります。

うなぎについてはもはや価格の問題よりも絶滅問題に直面しているといっても過言ではなく、適切に資源保護をはからなければ、いずれ口にできなくなる日が訪れるかもしれません。

エコパートナーシップうじたわら賛助会員

宇治田原工業団地管理組合、協栄開発株式会社、株式会社宇治田原製茶場、宇治田原町区長会、宇治田原町森林組合、株式会社馬場義電気、株式会社播磨園製茶、有限会社富山資源開発、宇治田原町商工会、宇治田原新聞サービス本舗株式会社、濱田プレス工藝株式会社、宇治田原町（敬称略・順不同）

お問い合わせ先：エコパートナーシップうじたわら事務局（宇治田原町建設事業部建設環境課内）

〒610-0289 京都府綴喜郡宇治田原町大字荒木小字西出10

TEL 0774-88-6639 FAX 0774-88-3231 Eメール：junkan@town.ujitawara.lg.jp

会報のバックナンバーをご覧ください

宇治田原町役場ホームページ「トップ」⇒「環境衛生」⇒「エコパートナーシップうじたわら」

エコパートナーシップうじたわら facebook ページ公開中



茶文化の源 水・緑・生命の環を育む和みのまち 宇治田原